小倉百人一首の歌人たち（其の五）

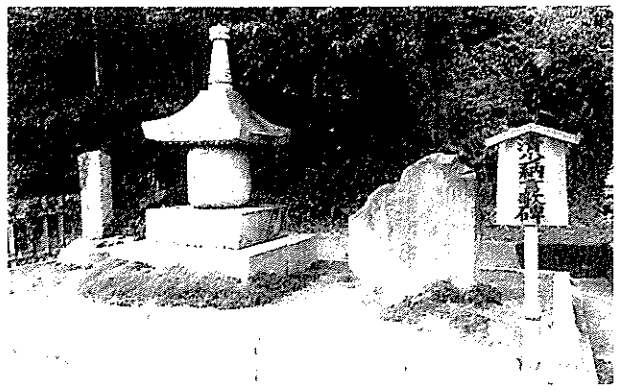
清少納言

“夜を込めて　鳥のそら音に　はかるとも
よに逢坂の関は　ゆるさじ“

随筆集「枕草子」であまりにも有名な女流作家。紫式部とともに平安時代を代表する。和漢の学に通じた才女と伝えられるが、特に漢語では群を抜く反面、紫式部はその日記で「利口ぶって、漢字を書きちらし、鼻もちならぬところがある。」とも評している。しかし、逆に「枕草子」は「源氏物語」に少なからず影響を与えていると思われるところもみられる。

この百人一首に撰ばれた歌は、書家として有名だった藤原行成との思わせぶりな恋情のやりとりを歌ったものとされるが、真意は、中国戦国時代、司馬遷の「史記」にある。捕われの身にあった孟嘗君が、一番鶏の啼き声で開くという函谷関の門を、夜中に鶏の声をだまして開けさせ、まんまと逃走したという故事に基づくもの。要は、「私はその故事のようにそう簡単にはだまされませんよ」ということらしい。正直言って、この歌はこの故事を知らなければ良く理解できないのも事実です。

また清少納言の絵姿として、よく引き合いに出される土佐光起の「清少納言絵図」も、唐の白居易（白楽天）の「遺愛寺の鐘は枕をそばだてて聞く、香炉峯の雪は簾をかかげて見る」という漢詩にあり、清少納言の漢詩文への素養の深さを印象づけるものと云われますが、これも白居易の詩を知らなければ、良くわかりかねるところでもあります。



清少納言　歌碑（泉涌寺）

ですから、百人一首撰者藤原定家が、この歌を撰んだ根拠は何だったのか、と考えますと、平安中期から後期にかけて秀でた歌人と評価された中古三十六歌仙の一人として撰ばれてはいますが、百人一首撰の基礎となった勅撰八代集には、合わせてたった七首しか撰ばれておらず、決して多いものではありません。和歌を嗜むが、歌人である父元輔や曾祖父深養父の名を汚すまいと作歌を控えめにしたとも云われ、やはり、随筆家であり漢詩文に長じた清少納言の歌としては、この歌がふさわしいとしたのでは、と思うわけです。

（日本かるた院本院　参与　河田　久章）

「都草」京都学ポイントレッスン　3

下記の文を読み（　）に入れる適当な語句を下の該当番号の語句から選びなさい。

西国巡礼は8世紀 長谷寺の（１）上人によって創められたが中断。その後10世紀（２）天皇により西国三十三所巡礼を定められ再興される。（２）天皇は藤原兼家等の陰謀で天皇の位を追われ元慶寺で出家。自作の禅衣観音を背負って観音霊場を巡拝し、この禅衣観音は寺院（３）に納められたと伝えられる。

西国三十三所観音霊場巡りは和歌山県の寺院（４）に始まり、岐阜県の谷汲山華厳寺で終わる広域なもの。そこでそれに代わるものとして、洛陽三十三所観音霊場巡りが平安時代に（５）法王の勅願で始まった。明治時代、廃仏毀釈により一度廃れたが、平成17年、百数十年ぶりに再興された。そして平成20年には神仏習合信仰の復活を目指して、伊勢神宮の他関西150の社寺が参加する神仏霊場会の新巡礼がスタートしている。

(1)　(ア)徳道　(イ)空也　(ウ)戎算　(エ)明恵
(2)　(ア)一条　(イ)三条　(ウ)花山　(エ)後三条
(3)　(ア)相国寺　(イ)峰定寺　(ウ)十輪寺　(エ)善峯寺
(4)　(ア)粉河寺　(イ)青岸渡寺　(ウ)岡寺　(エ)園城寺
(5)　(ア)白河　(イ)鳥羽　(ウ)宇多　(エ)後白河
(6)　真言宗では六観音は聖観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、如意輪観音、准胝観音をさす。定慶作の重文の観音六体が揃う真言宗寺院はどこか。
(7)　西国三十三所観音霊場で唯一馬頭観音を本尊としている寺院はどこか。
(8)　28番札所成相寺は水墨画「天橋立図」（国宝）に描かれている。描いたのは誰か。
(9)　海に囲まれた天橋立に塩分を含まない名水として知られ、名水百選の一つに選ばれている。何と呼ばれるか。
(10)「天つ風 雲の通ひ路 吹きとぢよ をとめの姿 しばしとどめむ」 この歌を詠んだ六歌仙の一人で西国三十三所番外元慶寺を開基したのは誰か。

編集後記

春爛漫というのに、花粉症の我等にとっては苦痛の季節です。部屋に籠って目を閉じているのが一番だそうですが、そういう訳にはいきません。
さて、第４号「都草だより」の発刊から編集委員会を二班に分けて活動することになりました。二班制にすることにより、現場取材に十分な時間をかけることができ、質の高い記事を編集できればと考えております。

（藤野）

ポイントレッスンの答：
（1）(ア)　（2）(ウ)　（3）(ウ)　（4）(イ)　（5）(エ)
（6）大報恩寺　（7）松尾寺　（8）雪舟　（9）磯清水　（１０）遍昭

第４号　NPO法人　京都観光文化を考える会　平成21年4月1日発行
都草 MIYAKOGUSA　都草だより
発行人：坂本孝志
編集人：島田上郎
発行所：[illegible]
京都市[illegible]区
[illegible]
電　話：075-451-8146

西国巡礼と観音信仰について

私が西国巡礼とか観音信仰に目覚めたのは今から26、7年前のことで、当時母親が暇を見つけてはバスを利用し札所を巡り、朱印帳や笈摺にありがたい御朱印をいただき、嬉しそうに話をしてくれたのが興味を持ち始めたキッカケです。

その後、遠隔地の札所（円教寺、宝厳寺、華厳寺など）、険しい山道が残る札所（上醍醐寺、観音正寺、成相寺など）を訪問する際には母親を自家用車に乗せ、何カ所も道案内したのがつい昨日のことのように思い出されます。

仏教、仏像、伽藍に全く知識の無かった私が、各札所の境内に足を踏み入れて最初に驚いたのは、巨樹が林立し、風情があり、凛とした空気の漂う中での大伽藍の存在感でした。

第八番　豊山　長谷寺（回廊と牡丹の花）

「なんと素晴らしく立派な寺院が多いなぁ～」と同時に「巡礼者も多いなぁ～」と率直に感じ入り、ひょっとしたら私も晩年になれば同じように巡礼者として札所や神社、仏閣を巡っているかも知れないと何となく予感が致しました。

観音様は、釈迦入滅後の無仏の時代、56億7000万年を経た後、弥勒菩薩が現れるまで地蔵菩薩とともに日本人の間で最も広く、また最も深く信仰されている菩薩であり33変化しながらこの世に現れ、衆生のあらゆる悩みや罪業を救ってくれると観音経に説かれています。従って、33変化から三十三札所が必然的に生まれたに違いありません。

この巡礼は、養老2年（718）、長谷寺の開基徳道上人によって創められたが、なかなか信仰を得ることが出来ず次第に寂れていきました。しかしながら、それから270年後の永延2年（988）、西国巡礼の中興の祖といわれた花山法皇（冷泉天皇の子、第65代天皇、17歳で即位し19歳で仏門に入り退位）は、出家後、徳道上人が観音霊場三十三所の宝印を石棺に納めたという伝承のあった中山寺（摂津）でこの宝印を探し出し、性空上人を供にして西国三十三所巡礼を定められ、それ以後、この巡礼が息を吹き返し盛んになりました。

なぜ、この33寺院が選ばれたのかは書物を紐解いてもわかりませんし、巡礼の順序も過去はまちまちでした。それが江戸時代になり関東の人々の巡礼が多くなったため、その便利さから、まずお伊勢参りを済ました後、熊野路を経て那智に入り、那智山青岸渡寺を1番札所として、紀伊（和歌山県）、和泉・河内（大阪府）、大和（奈良県）、山城・丹波（京都府）、摂津（大阪府）、播磨（兵庫県）、丹後（京都府）、近江（滋賀県）、を巡って美濃（岐阜県）の谷汲山華厳寺で満願となる順序が定まり、その名も「西国三十三所」と呼ばれるようになりました。
また、この霊場を「札所」といいますが、昔の巡礼は霊場の観音様の前でお経や当山のご詠歌をとなえた後、そのしるしに納札という木の札を打ち付けていましたのでその名ができました。

平成20年は花山法皇の没後千年にあたり、昨年の9月から3年間に渡り、17躯の秘仏を含む西国三十三所結縁が、順次御開帳となり仏像ファン、観音様ファンを大いに喜ばしています。
これを機会に、寺院の由来や伝説を頭に叩き込み、仏像、伽藍などの知識を身につけてお詣りすれば、今以上に観音様を興味深く拝観することが出来、ご利益も充分にいただけることと思います。

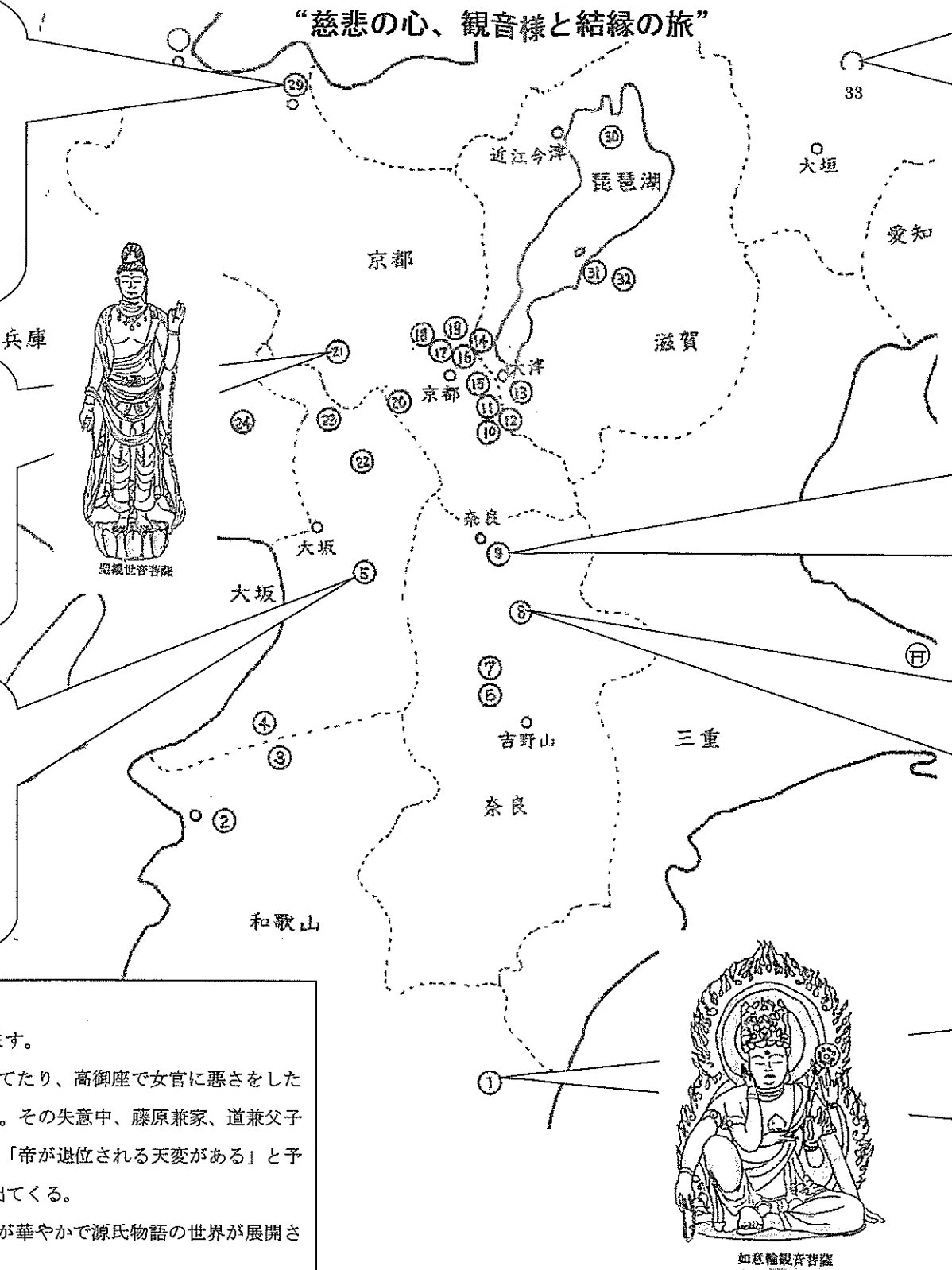
今こそチャンス！　西国三十三所巡礼の旅に出よう！

そして観音様のご利益を！　「念彼観音力」

（中江好喜）

番外　華頂山　元慶寺　（鐘楼門）

“慈悲の心、観音様と結縁の旅”



第二十九番札所　青葉山松尾寺

＊馬頭観世音菩薩：馬の頭を頭上に戴く馬頭観音像は三面八臂で憤怒の様相だが、その怒りの中に慈悲の深さが感じ取れる。天馬の如く駆け巡り、煩悩を喰い尽して衆生を救済守護すると崇められている。

＊和銅元年(708)、創立。威光上人が修行中に馬頭観音が現れ安置したのが始まり。農耕や道中安全を加護する。

＊本堂は天正９年(1581)細川幽斎の再建。

第二十一番札所　菩提山穴太寺

＊聖観世音菩薩：本尊は二代目で佐川定慶作。別称「身代わり観音」と呼ばれ、自らを犠牲にしてでも広く衆生を救済してくれる観音様として信仰を集めてきた。

＊創建は慶運２年(705)で文武天皇の勅願、開基は大伴古麿と伝わる。また本坊書院の庭園は池泉築山式の見事さで丹波地方随一の呼び声が高い。

第五番札所　紫雲山葛井寺

＊十一面千手千眼観世音菩薩：実際に光背の様に広げた千本以上の手を持つ。あらゆる苦難に向き合う仏様で無限の慈悲を示す。本尊は神亀２年(725)の造立で現存する千手観音像の中で最古と言われ国宝である。

＊7 世紀中期ごろ、葛井氏の氏寺として創建。開眼供養は行基を導師に迎え聖武天皇も臨席。

第三十三番札所　谷汲山　華厳寺

＊十一面観世音菩薩

＊西国霊場の「満願霊場」として尊厳ある寺院。「精進落としの鯉」に触れたのち、「笈摺堂」へ。

御詠歌　今迄は親と頼みし笈摺りを脱ぎて納むる
　　美濃の谷汲

第九番札所　南円堂

＊不空羂索観世音菩薩：「羂」は獣を捕らえる網、「索」は魚を釣る糸のこと。

＊縄の力で一切の衆生を漏れなく救い、すべての願いを叶えてくださる。

＊西国三十三所で唯一山号がない。かっては月輪山というのがあった。

＊国宝五重塔 50.8m、明治時代 50 円で売り出された。

第八番札所　豊山　長谷寺

＊十一面観世音菩薩：あらゆる苦難に向き合う仏さま。

＊本尊の観音様は日本最大の木造仏で 10m。

＊徳道上人が十一面観世音菩薩をお祀りし、西国三十三所観音めぐりの開祖となる。

＊「花のみてら」とよばれる。登廊の周りに初夏ともなれば 7000 本の牡丹が花咲く。

第一番札所　那智山　青岸渡寺

＊如意輪観音：願い事を意のままに叶えてくれる観音さま。如意法輪を持っている。

＊その他如意輪観音がある寺：7 岡寺、13 石山寺、14 園城寺、18 頂法寺、27 円教寺

＊伊勢、熊野路をへて那智に入ったことにより利便性から第一番となる。

＊日本一の那智滝：133m、

＊補陀洛浄土であり、黄泉の国である。

都草抄

異色の天皇、第 65 代花山天皇について巷間伝えられるお話をしてみます。

生後 10 か月で皇太子、17 歳で即位。即位式では王冠が重いと脱ぎ捨てたり、高御座で女官に悪さをしたとか。19 歳の時、寵愛の女御を妊娠中も手放さず、妊娠 8 か月で他界。その失意中、藤原兼家、道兼父子にそそのかされて山科・元慶寺で出家。夜道、安倍晴明邸を通った時、「帝が退位される天変がある」と予言したとか。やっと任官した藤原為時(紫式部の父)が失職する逸話も出てくる。

このあと即位するが、兼家の外孫・一条天皇で、彰子の文化サロンが華やかで源氏物語の世界が展開される。

出家後、那智に赴き千日修行を行うが、熊野権現から西国巡礼再興の神託を受ける。中山寺で宝印を探し、仏眼、性空、弁光と共に巡礼し、観音信仰を復興したと伝承されている。

25 歳で帰京するが、29 歳の時、寵愛して死んだ女御の妹(四女)の許へ忍んだところ三女の愛人・藤原伊周(道長の兄道隆の子)に誤解され矢を射かけられたとか(長徳の変)。この種の話はまだまだあります。

一方、絵画、建築、和歌などの芸術的才能に恵まれ、西国三十三所の御詠歌も作られたと伝えられている。平野神社の桜も彼が植えたとか。41 歳で崩御するまでかなり自由奔放で伝承の多い異色の天皇だったようです。

(今井敏明)

1 青岸渡寺　2 紀三井寺、3 粉河寺、4 施福寺、5 葛井寺，6 壺坂寺
7 岡寺、8 長谷寺、9 南円堂、10 三室戸寺、11 上醍醐、12 岩間寺、13 石山寺
14 園城寺、15 今熊野観音寺、16 清水寺、17 六波羅蜜寺、18 頂法寺、19 行願寺
20 善峯寺，21 穴太寺、22 総持寺、23 勝尾寺、24 中山寺、25 清水寺、26 一乗寺、
27 圓教寺、28 成相寺、29 松尾寺、30 宝厳寺、31 長命寺、32 観音正寺、33 華厳寺
㊐ 伊勢神宮